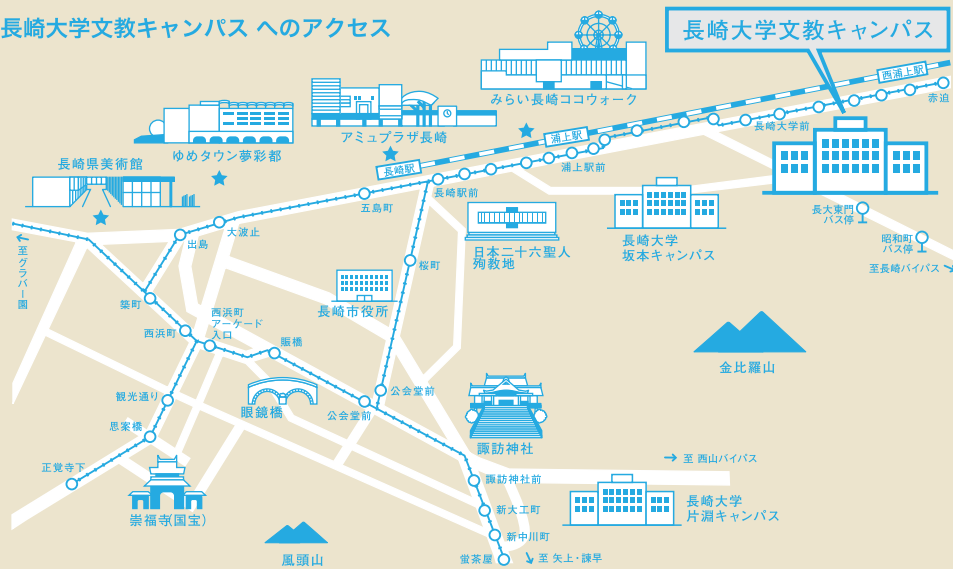


# NAGASAKI UNIVERSITY

## 長崎大学多文化社会学部

School of Global Humanities and  
Social Sciences (SGHSS)

### 長崎大学文教キャンパス へのアクセス



#### JRをご利用の場合

JR長崎本線「浦上駅」下車、その後、以下の路面電車もしくはバス利用

- 浦上駅から路面電車をご利用の場合  
「浦上駅前」から「赤迫（あかさこ）」行き乗車  
「長崎大学前」で下車（所要時間 / 約10分）料金120円

- 浦上駅からバスをご利用の場合  
「浦上駅前」から「1番系統」のバスに乗車  
「長崎大学前」下車（所要時間 / 約10分）料金150円



#### 高速バスをご利用の場合

浦上経由長崎方面行きバス「昭和町（しょうわまち）」で下車し、徒歩で長崎大学東門まで約15分あるいは長崎大学正門まで約20分



#### 航空機をご利用の場合

長崎空港（大村市）から浦上経由長崎方面行き長崎県営バス「長崎空港リムジン」で「長大東門前（ちようだいひがしもんまえ）」で下車（所要時間 / 約50分）、又は住吉経由長崎方面行き長崎県営バス「長崎空港リムジン」で「長崎大学前（ながさきだいがくまえ）」で下車（所要時間 / 約55分）し、徒歩で約3分  
片道バス料金 / 800円、往復バス料金 / 1,200円



# 地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考える、人間性豊かな人材を育成します。

長崎大学多文化社会学部では、語学・社会科学・人文学からなる

多彩なカリキュラム、海外留学やフィールドワークなど積極的な学びの制度により

豊かな人間性を持つ人文社会系グローバル人材を育成します。

世界や他者との紐帯そのものである「ことばの力」、主体的に世界を観察し

体験的に情報を得る「調べる力」、調べた材料をもとに理解を深める「知識・考える力」、

そして社会へ働きかけ、変化を起こす「行動力」を身につけ、

卒業後には長崎から世界へと舞台を移し、新しい時代や価値、文化を創造しましょう。

## 【教育理念】

多文化社会学部は、グローバル化に伴い複数の文化の共生と協働が求められる現代世界において国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材を育成することを教育理念としています。

## 【教育目標】

高度の英語力と  
コミュニケーション能力を  
持っている

高度の英語力を有し、グローバル化する世界において、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる人材の育成。

文化的多様性を理解できる

グローバル化する世界における多文化状況に関する知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる人材の育成。

共生的な関係を築き  
問題解決に向け行動する

グローバル化する世界の中で、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動することができる人材の育成。

# 地域から世界へ。長崎大学だからできる学びがあります。

「多文化社会学部」は、昨年誕生したばかりの人文社会系の新しい学部です。人文社会学とは個性ある文化、歴史、地理や国際関係と真正面から向き合う学問です。多文化との共生・協働が最大の課題となる中、政治・経済、文化、社会活動分野等で国際的な活躍のできる人文社会系グローバル人材の育成に向けて、様々な新しいチャレンジを開始しています。破格の英語力を備えた、現場に強く、個性が際立つ長崎大学ならではのグローバル人材を目指します。多様性の時代、通り一遍の知識を英語で語れるだけでは国際社会では通用しません。生まれ育った土地、あるいは

学んだ街、さらには愛する国のことを通して、世界を語ることでできる人材こそが真のグローバル人材であり、国際社会において確固たる存在感を発揮できます。本学部では、長崎に根ざした特色ある教育を通じて、地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考えることのできるグローバルシティを体現する人材が育つこととなります。400年以上にわたる海外交流の歴史を持つ長崎で学び、個性際立つグローバル人材として世界へ飛翔する。そんな志に燃える若者たちを待っています。



学長 片峰 茂

1950年生まれ。長崎大学医学部卒業、東北大学大学院医学研究科修了(医学博士)。長崎大学教授、副学長、国立大学法人長崎大学理事等を経て、2008年学長就任。



学部長 佐久間 正

1949年生まれ。長崎大学理事(教務担当)、副学長を歴任。博士(文学)。専門分野は日本思想史。著書に「徳川日本の思想形成と儒教」(ベリカン社)がある。

## グローバル化に伴う多文化状況に立ち向かう学部として

歴史上これまでになかった規模で多くの人々が国境を越えて行き交う世界。情報はインターネットを通じて瞬時に世界をめぐる、社会を支える財貨もまた一国内に止まらない。このようなグローバル化の動きは、様々な問題を惹起しています。未来を展望し得る新しい胎動もあれば、暗雲をもたらしかねない危機的な衝撃もあります。国境の壁も一層低くなっていくわけではありません。しかしいずれにせよ、文化的背景を異にする人々が共に生活し働く場が飛躍的に増大していることは疑うべくもありません。自らとは異なる文化的背景を有する人々、〈文化的他者〉との出会いは避けられません。私たちはこのような状況を〈多文化状況〉、そのような特徴を持つ社会を〈多文化社会〉と呼んでいます。長崎大学多文化社会学部は、このような多文化社会をめぐる諸問題について教育研究し、卒業生が多文化社会において活躍することを期待しています。そのために、学生諸君に何が求められているか。私たちは次のように考えています。

- ◎異なった考えや価値観を尊重するとともに、自らの考えを的確に述べるができる。
- ◎国際通用語としての英語でコミュニケーションができる。
- ◎グローバル化や多文化状況に関する基本的な知識を有している。
- ◎自ら問題を発見し、その解決に向け、意欲を持って取り組むことができる。

本学部のカリキュラムは、このような資質を学生諸君が身につけることができるように、様々な工夫され整備されています。

多くの皆さんが多文化社会学部について理解を深められ、そして多くの学生諸君が本学部へ志望されるよう本パンフレットが活用されることを期待しています。

## Contents

身につけるべき4つの能力	02	[各コースの紹介]	
特色ある4つのコース	03	グローバル社会コース	10
語学力強化のためのプログラム	04	社会動態コース	11
世界への扉を開く留学プログラム	06	共生文化コース	12
多文化社会学部の学びのシステム	08	オランダ特別コース	13
		教員紹介	14
		独自のキャリア教育プログラム	16
		TOPICS	17
		年間スケジュール	18
		「国際学際ホルテンシア」のご案内	19
		入試情報	20

## 多文化社会で活躍する グローバル人材であるために 身につけるべき4つの能力

多文化社会である現代において、国際的に活躍する人材となるために備えておくべき4つの能力。

それは「ことばの力」、「調べる力」、「知識・考える力」、「行動力」です。

多文化社会学部では、これら4つの力を総合的に養っていくことで確かな論理や知識を軸とし、さまざまな場面で臨機応変に行動し、社会貢献できる、グローバル人材の育成を目指します。

## 「ローカル」から「グローバル」を目指す 世界を学びのステージにする 特色ある4つのコース

国際社会の仕組みを学ぶグローバル社会コース、

人・モノの動きから世の中をとらえる社会動態コース、

異なる文化や言語をもつ他者との共生を考える共生文化コース、

そして、オランダを切り口に現代の欧州を学ぶオランダ特別コースの4つのコースで構成されています。

自分が学びたいコースに進み、目標に向かってチャレンジしてください。

### Language

#### ことばの力



「ことばの力」とは「高度の外国語運用能力とコミュニケーション能力」です。それを実現するために多文化社会学部では英語モジュール、中国語モジュール及びオランダ語モジュールを用意し、とりわけ英語については、1年次の前期に集中的な学習時間を確保するようにしています。

【提供するカリキュラム】

- ◎英語モジュール
- ◎中国語モジュール
- ◎オランダ語モジュール

### Research

#### 調べる力



「調べる力」とは、フィールドにおけるリサーチスキルのことです。異文化を理解するために必要なのは、徹底した調査・分析。多文化社会学部ではデータ収集と問題整理、問題発見、調査の企画と実施を行うためのスキルを身につけられるようにします。

【提供するカリキュラム】

- ◎フィールドワークモジュール

### Global Society Program

#### グローバル 社会コース



●法学、政治学、経済学を中心とした、国際社会の「仕組み」を理解する

●専門モジュールのすべての講義科目を英語で開講

●中期・長期の海外留学（主として英語圏）が必須

### Social Dynamics Program

#### 社会 動態コース



●社会学、文化人類学、歴史学を中心として、多文化社会の変化と動態を理解する

●教員全員がフィールドワーカーであり、現地での実践経験を持つ

●アジア、アフリカ、ヨーロッパを対象とした知識とフィールドワークを通じた実践指導を実現

### Knowledge

#### 知識・ 考える力



「知識・考える力」は、すなわち「多文化状況と文化多様性の意義を理解できる力」のことで、多文化社会学部では1年次より学部モジュール6科目、共通基礎モジュール18科目、専門モジュール40科目を設定しています。

【提供するカリキュラム】

- ◎学部モジュール
- ◎共通基礎モジュール
- ◎専門モジュール

### Action

#### 行動力



「行動力」は、リーダーシップやパートナーシップ、あるいは実行力であり、教室での勉強だけでは身につけられません。多文化社会学部では全学生に短期留学を必須化するとともに、中期・長期の留学や海外でのフィールドワーク、インターンシップを推奨しています。

【提供するカリキュラム】

- ◎留学
- ◎フィールドワーク
- ◎インターンシップ

### Culture and Communication Program

#### 共生 文化コース



●思想、文化表象、メディア、言語等の面から多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学ぶ

●高等学校教諭一種免許状（英語）が取得可能

### Dutch Studies Program

#### オランダ 特別コース



●「実験国家」オランダを人文社会学の様々な角度から学ぶ、日本で唯一のコース

●オランダで最も古く、世界的に評価される「ライデン大学」から教授陣を招聘

●「ライデン大学」への1年間の留学が必須

※グローバル社会コース、社会動態コース、及び共生文化コースについては、2年次終了時にコースを決定します。



# 高い語学力は学びの軸であるとともに 多文化社会で活躍するための大切なツール

多文化社会学部では、ビジネス、学術、国際関係など現代社会のそれぞれの分野でグローバル人材として活躍するための不可欠なツールとして、「ことばの力」を重要視しています。「ことばの力」とりわけ英語力の徹底強化を目的に、系統的で集中した4年一貫の英語力養成プログラムを実施しています。専門知識の習得と同時に、グローバルな多文化社会で活躍するためのスキルとしての「高度の外国語能力」、「コミュニケーション能力」の獲得を目指すことが、多文化社会学部のプログラムの大きな特徴です。また、英語のほか将来、中国又はオランダに留学を希望する学生向けに、中国語及びオランダ語モジュールを開設しています。

## ■ 英語教育の方策

多文化社会学部では、英語力について段階的に目標値を設定し、4年一貫の英語力養成プログラムを実施しています。その目標達成のために、Transition Programの実施、短期留学の義務化、専門科目の英語での開講、及び定期的なTOEFL ITPの受験等に取り組んでいます（外部試験受験料は一部学部負担の制度あり）。

### 英語科目 18 科目

(1年次) 8科目 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Discussion I 英語の仕組みと意味 I 英語コミュニケーション I、II 総合英語 I、II	(2年次) 5科目 Academic Writing I 英語の仕組みと意味 II Reading and Writing II 英語コミュニケーション III 総合英語 III	(3年次) 4科目 Academic Writing II Reading and Discussion II Advanced English I、II (4年次) 1科目 Debate
---	--	---

## Transition Programの成果 (平成26年度入学生)

多文化社会学部では、学生の英語力の伸長度を測るため、各学年でTOEFL ITPを定期的に受験しています。平成26年度入学生では、1年次前期には484点であったものが後期には515点（それぞれ平均点）まで伸びています。

1年次前期 **484点** >>> 1年次後期 **515点**

## ● 中国語モジュール及びオランダ語モジュール

### 中国語モジュール

世界で必要性が増している中国語。最終的には中国語でプレゼンテーションができるレベルの力を身につけます。

(科目名) 5科目  
中国語総合表現 I、II  
中国語文献討論 I、II  
中国語プレゼンテーション

### オランダ語モジュール

オランダ特別コースの学生は必修。初級レベルの文法から長文読解や作文にも取り組み、ライデン大学への留学に備えます。

(科目名) 3科目  
オランダ語 I、II、III

## ■ Student's Voice



【教養ゼミナール】  
教養の習得だけでなく、積極的な意見交換の楽しさも感じられる講義です。

1年 大石 直子

滋賀県立米原高等学校出身

教養ゼミナールでは主に、大学で必要となるであろう文献調査等の知識や、社会で必要とされるマナーを学びます。グループごとに担当の先生とコーチングフェローが付き、きめ細やかな指導をしてくれます。今はグループ内でさらに班に分かれ、調査テーマを設定し英語でのプレゼンに備えて準備しています。グループ内で積極的な意見交換が求められるので、自分の意見を伝える力が身に付けられます。また、多様なバックグラウンドを持つ先生の貴重なお話を聞けることも、教養ゼミナールの一つの魅力です。



【英語コミュニケーション II】  
学んだ表現をすぐに実践することで、自分の力につながります。

1年 前門 麻美

大分県立佐伯鶴城高等学校出身

この授業では、日常会話で頻繁に使われる表現を用いて、自分の経験や考えを伝える練習をしています。スピーキングの上達において最も大切な、「伝えようとする気持ち」を持って、「何度も訓練する」ことができます。その中でだんだんと自然な表現ができるようになり、力がついているという実感が湧いてくるのは、本当に楽しいものです。自分の考えを述べるフリーライティングでは、先生がより適切な表現を、一人ひとりに細かく指導してください。また、仲間はみな実力があり志も高く、積極的に学ぼうとする人ばかりで、自分の力を高めるには最高の環境であると思います。この授業を通して、英語によって自分の可能性を広げ、日本や世界に貢献できる人材を目指したいです。

# 1年次から徹底して英語力をトレーニング

## Transition Program

「知の1000時間マラソン」で英語力を強化

Transition Programとは1年次前期に英語と大学入門科目を集中的に履修するプログラムです。英語科目(7科目)、大学入門科目といった正課科目のほかに、夏季英語集中講座、英語カフェへの参加、教養ゼミナール成果発表会などが含まれています。これらの学習時間を合計するとおよそ1000時間となります。これを「知の1000時間マラソン」と呼んでいます。1年次10月時点で到達目標のTOEFL iBT61点、TOEFL PBT (ITP) 500点、IELTS5.5を目指します。

なお、入学時に基準 (TOEFL iBT61点、TOEFL PBT 500点、IELTS 5.5、TOEIC 730点) を達成している学生は、講義の受講に代えて、国際ボランティアやインターンシップ、フィールドワークに参加することができます。英語力を一層上達させるとともに、社会認識を深めることが可能になります。

## 英語カフェ

実践的に生きた英語を鍛えるコミュニケーションプログラム

Transition Programの一環として、【英語カフェ】を実施しています。英語カフェは、実践的かつ生きた英語力を培うべく、毎日開催している英語コミュニケーションのプログラムです。プログラムの内容は定期的に変更しますが、さまざまなトピックについて英語で自由闊達に議論したり、テーマを決めてディスカッションをして、実践的に英語を鍛えます。2年次からは、培ってきた英語力をさらに磨き、向上させるため【英語カフェ advanced】を開催しています。



多文化ラウンジでの英語カフェの様子



## 英語カフェ特別セッション

英語カフェでは随時、外国人講師の方々をお招きし、英語で海外の国、大学や文化に関する講演を実施しています。学生が海外の実情への認識を深める、貴重な機会になっています。

## 多文化ラウンジ

フリースペースを活用して語学力アップ!

学生が自由に使えるスペースで、自習や打ち合わせのほか、英会話の実践的練習のためにも使うことができます。ここで学生同士、あるいはコーチングフェローを交えて語学力の上達を目指します。



## CALL システム

学内外・時間を問わずに英語を学習できる環境を整備!

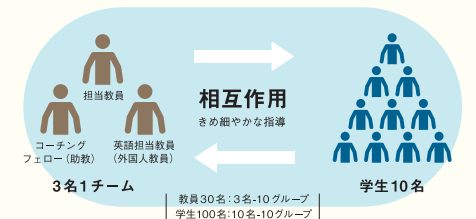
コンピューターによる英語自学自習システムで、学内外さらに携帯からも24時間アクセス可能です。本学部では2教室で、CALLシステムを導入したパソコンを整備しています。



## コーチングフェロー

きめ細やかな指導体制で学修をサポート

コーチングフェローとは、担任教員や英語担当教員を補佐し、教員と学生をつなぐ戦略職員。本学部では学生10名に対して、担任教員、英語担当教員(英語で授業を実施する教員又は外国人教員)及びコーチングフェロー(又は助教)の3名で指導チームを編成。学生一人ひとりによりきめ細やかな指導を実現します。なお、指導チームは定期的にミーティングを開催し、学生の履修状況を把握し、指導方法を適宜確認します。





# 世界への扉を開く さまざまな留学プログラム

異文化への理解を深めるために留学を推奨している長崎大学。そのなかでも多文化社会学部では、短期・中期・長期留学を組み込んだカリキュラムを構成し、英語をはじめとする語学力の向上を目指しています。また、他にも海外でのフィールドワークやボランティア、インターンシップなども実施しています。

## ■短期留学

短期留学は、主として1年次の学生全員を対象としています。英語をはじめとする外国語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的として数週間程度、海外大学との提携に基づくスプリングプログラム、サマープログラム等の海外大学との提携プログラムに参加します。短期留学は、長崎大学の教養教育科目の一部である外国語科目として単位認定されます。

注：平成26年度の状況について  
平成26年度の留学先、期間、旅行代金、留学奨学金（給付型）は、次のようになっています。平成27年度以降の短期留学プログラムの内容については未定であり、平成26年度実績から変更される可能性があります。

## Ⅰ 留学先、時期及び期間について（平成26年度実績）

留学先		人数	時期	期間
アメリカ	カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校	15名	平成26年9月	3~4週間
	カルガリー大学	13名		
カナダ	マニトバ大学	16名		
	ウイニベグ大学	13名		
オーストラリア	クイーンズランド工科大学	15名	平成27年3月	
	サザンクロス大学	20名		



### 旅行代金

約40～50万円

### 留学奨学金（給付型）（平成26年度実績）

13万円（アメリカ、カナダ）  
12万円（オーストラリア）

※原則として短期留学参加者全員に給付します。

※旅行代金に含まれるもの エコノミークラス利用往復航空券、航空保険料・燃油費、日本・現地空港諸税、現地空港～大学の往復送迎費、宿泊費、授業料・研修費、食費（一部）  
※旅行代金に含まれないもの（一部を例示します） 超過手荷物料金、海外旅行保険、長崎又は福岡空港までの往復交通費、その他実費、その他個人的生活諸費用

## 短期留学に参加した在学生からのメッセージ



### 2年 廣岡 胡美

（福岡県立北筑高等学校出身）

私は3月に、オーストラリアのクイーンズランド、ブリスベンにあるクイーンズランド工科大学に、3週間の留学をしました。街の中心部に近く、観光も楽しむことが出来ます。授業は、主にレベッカという英語の先生が担当、長崎大学の生徒専用

用に作成された教科書を使用しました。試験もあり、先生からのフィードバックも多く、英語の四つの技能をバランスよく身につけることが出来ました。私のホームステイ先は、スリランカ人の家庭で、食事もおいしく、部屋も広く、ホストファミリーは、出来るだけ私と一緒に時間を過ごしてくれました。初めてのオーストラリア滞在、ホームステイでしたが、どちらも充実したものとなりました。この大学を選んで本当に良かったです！



### 2年 渡邊 修平

（福岡県・東筑紫学園高等学校出身）

私は、カナダのカルガリー大学へ短期留学に行きました。最初は現地での生活や学校の授業に慣れるのに精一杯でなかなか楽しめませんでした。振り返ってみると素晴らしい経験が出来ました。授業は午前と午後で一コマずつ行われ、午前

の授業は会話の授業、午後は童話集を使って短い小説を読み、最後は劇などをしました。英語で話す力に自信がなかった自分にとってホストファミリーとの生活も大変でしたが、先生やホストファミリーが英語しか話せないという環境を作ってくれたおかげで、英語で何かを伝えようとする力はかなり身についたと思います。短い期間でしたが、自分の行動力次第では大きく成長できる良いきっかけになると思います。



## ■中期・長期留学

中期・長期留学は、学部で学んだ専門知識を海外において更に展開し、短期留学では得難い自立した生活者としての体験を通して自己認識を深めることを目的としています。全て、大学間の学術交流協定に基づく交換留学として実施され、学生は本学の学費を納入し、在学したまま留学することになります。留学するためには、英語力及び学業成績に関する一定の要件を満たす必要があります。

「グローバル社会コース」及び「オランダ特別コース」を選択した学生に半年から1年間の留学を原則として義務付けます。また、「社会動態コース」及び「共生文化コース」を選択した学生にも、中期・長期留学を推奨します。帰国した後は、留学先の大学及び本学部のシラバスの内容・レベルに基づいて、各学生の留学先における成績について、科目ごとに審査した上で単位を認定し、4年間で卒業することができます。

## ■海外協定先（平成27年7月1日現在）

多文化社会学部には世界各地に海外協定先があり、その数は将来的にさらに増えていく予定です。夢や目標を持って世界へと飛び出していく学生を支援するため、今後も、海外協定先のネットワークを広げていきます。



## ■海外フィールドワーク実習

海外フィールドワーク実習はフィールドワークモジュールの選択科目で、中期・長期留学に準じるものとして実施されます。

アジアやアフリカからフィールドを選定し、他者と出会い、相互作用する中で、グローバル時代の社会人として必要なコミュニケーション能力を高め、同時に専門的な学びを実現することができます。



## ■留学サポート体制

海外留学に伴うリスクを最小限にするために、学生の安全確保に対して十分配慮したプログラムを設計しています。学生が海外留学に出かける前には複数回のオリエンテーションを実施しています。留学中は、担当教員が随時電子メール等で学生の相談に応じるほか、適宜、留学先を訪問し、学生の留学生活の視察や相談、指導を行っており、留学先の担当者と密に連絡を取り合い、学生の状況を把握するとともに、情報を共有することで学部内での啓発推進体制を整えています。なお、平成26年度に実施した海外短期研修では教職員が一部の旅程を引率しました。また、長崎大学は留学生危機管理サービス（OSSMA）に加入しており、24時間体制で学生の留学生活をサポートしています。

## ■留学相談室

多文化社会学部では留学相談室を設置し、留学に関する必要な情報を提供しています。また学生の留学に対する疑問や不安を戦略職員（国際交流ディレクター）に相談することができます。



# 多文化社会学部の学びのシステム

語学力を徹底的に強化し、

人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合した学際性に富むカリキュラム

学びの領域	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次
多文化社会について学ぶ	短期留学	短期留学	中期・長期留学		中期・長期留学		卒業研究
	Transition Program	■多文化社会の諸問題 長崎から出発するグローバル世界へ アジア理解への扉 アフリカ理解への扉 オランダ・ヨーロッパ理解への扉 日本を知る	■グローバル社会のしくみ ・多文化のなかのルール (英語) ・多文化社会のガバナンス (英語) ・文化のなかのエコノミー (英語) ・地域をこえるマネジメント ・ジェンダーと人権 ・紛争と平和 (英語)	■社会を映し出す文化、文化が作り出す社会 ・文化は社会の鏡なのか ・出来事と表象のあいだ ・他者と生きる技法 ・越境する文化 ・人間観とコスモロジー ・日本の中の世界、世界の中の日本	■多言語を学ぶ、多言語で学ぶ ・英語からたどる文化 (英語) ・日本語からたどる文化 ・中国語からたどる文化 ・アジア諸言語からたどる文化 ・ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ・アフリカ諸言語からたどる文化	社会グローバル 比較政治 (英語) 国際法 (英語) 国際開発論 (英語) 国際政治学 (英語) 軍縮と平和 (英語) 国際機構論 (英語) グローバル人口学 (英語) 国際人権論 (英語) 多文化マーケティング論 (英語) 国際経営 (英語) 国際協力論 (英語) アジア経済論 (英語)	社会動態 異文化理解教育 (英語) 異文化と家族 グローバル社会学 文化資源論 異文化交流論 トランスナショナルリティ論 アジア海域交流史 社会史 地域生態論 (英語)
			オランダ特別コース オランダ文化論 (英語) オランダ現代社会論 (英語)		社会共生文化 異文化間コミュニケーション (英語) 現代言語理論 日本語学 文化表象論 宗教文化論 対照言語学 記憶文化論 コーパス言語学 (英語) 地域文化論	オランダ特別コース 日蘭比較文化 日蘭交流史	卒業研究 中国思想史 日本思想史 メディア文化論 (英語)
キャリアについて学ぶ	グローバルキャリアへの扉		自主企画インターンシップ		キャリア形成論		特別研究
フィールド調査と研究報告の方法を学ぶ	教養セミナー フィールドワーク入門	フィールドワーク基礎実習 アーカイブ実習	基礎演習 A 映像・デジタルアーカイブ実習	基礎演習 B サーベイ基礎実習 (英語) インタビュー調査基礎実習	専門演習 I-A 専門演習 I-B 海外フィールドワーク実習 (英語)	専門演習 II-A 専門演習 II-B	
外国語コミュニケーションについて学ぶ	英語発音法 Reading and Writing I Reading and Discussion I	英語の仕組みと意味 I	英語の仕組みと意味 II Reading and Writing II	Academic Writing I	Academic Writing II	Reading and Discussion II	Debate
	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 総合英語 I 総合英語 II		総合英語 III	英語コミュニケーション III	Advanced English I	Advanced English II	
			中国語総合表現 I	中国語総合表現 II	中国語文献討論 I	中国語文献討論 II	中国語プレゼンテーション
		初習外国語 I 初習外国語 II	オランダ語 I 初習外国語 III	オランダ語 II 初習外国語 IV	オランダ語 III		
幅広い知識と技法を学ぶ	情報基礎	健康科学 スポーツ演習 全学モジュール I	全学モジュール II				

※(英語)は英語による開講科目 赤字=教養教育科目

【カリキュラム概要】主に以下の8つのモジュール等から成り立っています。

## Transition Program

1年次前期に大学入門科目と英語科目のみを集中的に受講し、学ぶ力の構造変化を生み出すプログラム。「知の1000時間マラソン」とも呼ばれています。

## 学部モジュール

1年次に受講する必修科目。多文化社会やその諸問題について学びます。長崎から出発し、アジア、アフリカ、ヨーロッパという3つの地域に関する歴史・社会・言語・文化の基礎的理解をした上で、日本を見直し、再確認するという学習プロセスを経て、グローバルな課題の概要とその背景を理解していきます。

## 共通基礎モジュール

既存の学問分野の特質を十分に理解した上で、その枠を越えて領域横断的に多文化社会の諸相にアプローチするための基礎的視角と枠組みを身につけます。

## フィールドワークモジュール

自ら問いを立て、適切な調査技法を選択し、データを収集し、レポートをまとめるフィールドワークの考え方や技法を学びます。「海外フィールドワーク実習」では、アジアやアフリカなどに行き、グローバルなコミュニケーション能力を高め、同時に専門的な学びを実現します。

## 中国語モジュール

世界で必要性が増している中国語を学びます。最終的には中国語によるプレゼンテーションができるレベルの力を身につけます。

## 専門モジュール

3つの専門コースとオランダ特別コース、各コースの専門分野の理解を深めます。オランダ特別コースでは、ライデン大学への留学が必修。ライデン大学では学生の関心と将来計画に即した講義を受講し、ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)に準拠したグローバルな専門知識と技能を身につけます。

## 英語モジュール

英語の仕組みから発音法、リーディング、ライティング、ディスカッション、ディベートまで学び、高度な英語力の修得を目指します。

## 留学、その他インターンシップなど

「グローバル社会コース」の学生に中期・長期留学を義務付けます。また、他のコースでも留学を推奨します。中期・長期留学は全て交換留学として実施され、在学したまま留学することになります。学部で学んだ専門知識を海外において展開し、自立した生活者としての体験を通して自己認識を深めることを目的としています。

## グローバル社会コース

法学、政治学、  
経済学などを中心に、  
国際社会の「仕組み」を学ぶ

グローバル社会コースでは、法学、政治学、経済学など社会科学の学問領域を中心に、国際社会の「仕組み」を学びます。

世界の国々、市民が国境を越えて相互に依存する国際社会は、多様な文化や歴史の蓄積のうえに成り立っています。このコースでは、社会基盤としての歴史、文化、言語を踏まえて、国際社会の仕組みを理解するためのカリキュラムを設計しています。また、専門モジュールのすべての授業を英語で行い、さらに、中期・長期留学を必修とするなど、英語を駆使して世界を舞台に柔軟に活躍する人材の育成を目指しています。



### 《開講科目》

- ・国際機構論 (英語)
- ・軍縮と平和 (英語)
- ・国際法 (英語)
- ・国際政治学 (英語)
- ・比較政治 (英語)
- ・国際経営 (英語)
- ・国際開発論 (英語)
- ・国際人権論 (英語)
- ・グローバル人口学 (英語)
- ・国際協力論 (英語)
- ・アジア経済論 (英語)
- ・多文化マーケティング論 (英語)

### Teacher's Voice



#### 【国際政治学】

社会のために国際政治を学び  
グローバルな視点を  
身につけましょう。

森川 裕二 准教授

グローバルな視点から国際政治の動きについて学びます。私たちは国際政治秩序の歴史的な転換期を迎えており、世界が一体化する地球化(グローバル化)が進むことで、一方ではこれまでの国際秩序が揺らぎはじめ、他方では市民やNGOといった国家以外のアクターが国境を越えて活動しています。このような変動する世界について自分で考える視点を養います。座学が中心ですが、とくに国際情勢を理解するために海外メディアや国際報道の“読み方”についてグループワークも随時取り入れて学びます。

多文化社会学部でグローバル視点を身につけることが、学生のみなさんの使命です。自分のために勉強するのではなく、社会のために国際関係について勉強しているという意識を持ち、現実の社会を批判的に論じ、未来社会を構想する力として発揮してほしいと思います。

### Student's Voice



#### 【文化のなかのエコノミー】

エコノミー、経済学とは  
私たちが生きていく上で  
とって身近な学問なのです。

2年 中石 実乃里

(熊本市立必由館高等学校出身)

私たちの文化的な行動は、経済活動と大きな関わりがあります。この講義では、身近な事例を基にそれぞれの文化的価値を検討し、背景となる経済の基礎知識を学びます。経済といえば難しい、というイメージを持つ方は少なくないと思います。しかし、この講義ではお金と幸福について考えたり、また観光における経済効果はどのように地域に還元されるのかを考えたりと、実社会の様々な現象を経済学の見方から捉え、またその意義を考えます。苦手意識のあった経済学も、本当に身近な学問であるということを実感し、毎回楽しみながら講義に参加しています。この講義を通じて経済学の見方を知ること、様々な人間活動の背景や、またその理由などをより詳しく理解できるようになります。経済現象の多様性を理解することは、多文化社会における経済問題の位置付けを考えることにもつながり、より豊かな社会を築くための制度設計を考えることができるようになることを目標とし取り組んでいます。

## 社会動態コース

社会学、文化人類学、  
歴史学を中心に、  
多文化社会を動的に理解する

社会動態コースでは、社会学、文化人類学、歴史学を中心として、多文化社会を動的に学びます。

長い歴史において、ヒトやモノや情報は常に移動を繰り返してきました。世界のどこかで発生した小さな変化が、人々の行動や情報伝達を通じて他の場所で大きな、思いもよらぬ変化をもたらしたりします。こうした全体的な変化のあり方を「社会動態」といいます。その動態を学ぶために、このコースではフィールドワークによる問題発見、調査、成果公表のスキルを身に付けることを重視します。



### 《開講科目》

- ・異文化理解教育 (英語)
- ・トランスナショナルリティ論
- ・異文化と家族
- ・グローバル社会学
- ・アジア海域交流史
- ・社会史
- ・異文化交流論
- ・文化資源論
- ・地域生態論 (英語)
- ・グローバル文化交流史
- ・現代アジア社会論
- ・現代アフリカ社会論 (英語)

### Teacher's Voice



#### 【現代アジア社会論】

さまざまな観点から  
アジアを認識し新しい価値を  
創造していきましょう。

首藤 明和 教授

既存のアジア認識のあり方を揺さぶるために「少数民族」や「漂泊の民」「地域のキーパーソン」などに着目して講義を進めます。またアジアの家族、コミュニティ、地域、国民社会、市民社会に対する理解を深めるとともに、トランスナショナルに展開する人々のネットワークにも着目します。

“近代知”には、人が人を支配したり、人が自然を支配することを当たり前のごとく捉えてしまう危険が潜んでいます。学生のみなさんには、ディベートやグループワーク、プレゼンなど積極的な学びの中で問題意識を深め、何のために学ぶのか、学ぶとはどういうことなのかというところまで考えてほしいと思います。誰もが自身の持つセンスを開放でき、生きとし生けるもの全てに居場所がある社会になるよう、新しい価値の創造に携ってください。

### Student's Voice



#### 【他者と生きる技法】

他者とは何かを知り  
共生する術を学ぶことで  
より良い多文化社会につながります。

2年 山岸 遙

(奈良県・天理高等学校出身)

「他者と生きる技法」の授業は、様々な経歴を持たれる先生方によるオムニバス形式で行われ、受講者数約90名の人気授業です。授業では、同一の価値観などを共有する「自己」に対する「他者」を扱います。「他者」というものは、自分と他人のように物理的に説明できるものではなく、どの部分に境界線を引くかによって変わり、極端に言えば、線引き次第で家族の中にも他者が存在することもあります。その他者とうまく共生したことも、ナチスドイツやアパルトヘイトのように他者を設定し、排除することによって自己の結束を固めたことや、自己が何者であるかを確立したこともあり、様々な技法が使われてきました。

グローバル化が進む今日では、多種多様な他者に出会うことが多く、講義で得た知識をもとに共生する方法を考察することで、より良い多文化社会の形成につながると考えます。



## 共生文化コース

多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学ぶ

共生文化コースでは、思想、文化表象、メディア、言語等の面から多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学びます。

世界がグローバル化すると、多様な文化的・言語的背景を持つ人びとが同じ空間の中で出会い、共生する機会が増えます。このコースでは、人びとが互いを認め合うための土台である思想、文化、言語に焦点を当て、他者との共生を豊かなものにするための人間観、文化理解、コミュニケーション技法を探索します。

また、教育職員免許状取得に必要な科目の単位をすべて修得した場合、卒業時に高等学校教諭一種免許状(英語)が取得できます。



### 《開講科目》

- ・日本思想史
- ・中国思想史
- ・宗教文化論
- ・文化表象論
- ・記憶文化論
- ・地域文化論
- ・メディア文化論(英語)
- ・現代言語理論
- ・異文化間コミュニケーション(英語)
- ・対照言語学
- ・日本語学
- ・コーパス言語学(英語)

### Teacher's Voice



#### 【日本語学】

自己の基盤となっている言語について学んでおくことも大切です。

池田 幸恵 准教授

日本語を音韻や文法、語彙などのさまざまな面から考察することにより、日本語とはどのような言語なのかを学びます。言葉はコミュニケーションの道具であるだけでなく、外界を認識する際の枠組みでもあります。日本語という言語の仕組みを深く考察することは、日本語話者の物の見方や考え方を理解する助けになるでしょう。また日本語には中国大陸や朝鮮半島などの関わりの中で形成されてきた歴史があります。その歴史を学ぶことで、今後日本語に起こり得る変化を見通すことも可能になるでしょう。グローバルに活躍するためには、自分の基盤である日本の文化や言語について知識を持っていることも大切です。学生たちには本学部で世界のことを知ると同時に日本のことも深く学び、「日本」を発信する人材に育ってほしいと思っています。

### Student's Voice



#### 【日本語からたどる文化】

グローバルな視点をもつための基盤となる授業です。

2年 重山 千夏

(宮崎県立宮崎大宮高等学校出身)

日本語の言語的特質や、宗教、民間伝承といった分野から日本について学ぶことで、日本文化への造詣を深めることのできる授業です。私はこの授業がきっかけで、論文を書く際に自身が使う日本語の適切性や、苗字の起源など様々なことに疑問を持ち、自身の周りには教材が溢れていることに気付かされました。このように日本を知ること、今までと異なる視点から日本というものが見えてくるようになります。

また、授業を通して日本という場所が育んできた文化の多様性を感じることができます。世界は多様な民族で構成され、私達は他文化の民族とどう共生していくのかを考えていく必要があります。この時代に日本の多様性について学ぶことは世界の多様性について学ぶことに通じていると思います。これは私達に求められるグローバルな視点の基盤ともなってくれるでしょう。

## オランダ特別コース

オランダを起点にヨーロッパ社会について学ぶ

オランダという、長崎に縁の深い地域に特化した、日本で唯一、世界でも珍しいコースです。オランダのライデン大学への1年間の留学を必修とし、定員は10名。かつての日本にとって西洋文化との接点であったオランダを知ることで、日本をかえりみる視点を養います。また、ヨーロッパ全体に関する知識を高めるとともに、現代オランダの大胆な政策から、日本社会の近未来の課題を考察。つまり「オランダを入口に世界と日本を学ぶ」というのが、この特別コースです。



### 《開講科目》

- ・オランダ文化論(英語)
- ・オランダ現代社会論(英語)
- ・日蘭比較文化
- ・日蘭交流史
- ・オランダ語I
- ・オランダ語II
- ・オランダ語III

### Teacher's Voice



#### 【オランダ文化論】

オランダはヨーロッパ諸国、世界各国の企業の架け橋です。

ボイケルス ハルメン 教授  
(ライデン大学招聘教授)

オランダは、ヨーロッパの国々の中では比較的小さな国です。ですがヨーロッパにおけるオランダの重要性は、単に数字で語ることはできません。

例えば、欧州連合の創設を定めたマーストリヒト条約(1993)締結においては、オランダの首相が特別な役割を果たしました。彼は、北欧および南欧の政府間の溝を埋めるのに尽力し、その結果、欧州中央銀行やユーロの導入に貢献しました。オランダの社会的な風土や政治・行政制度は、世界各国の企業の進出拠点としてふさわしい投資・ビジネス環境を提供しています。さらにオランダは、国際的企業がヨーロッパ諸国に展開する際のハブの役割も果たしています。また、日本企業は、ヨーロッパの中でオランダにもっとも多く進出しています。

これらはあくまで一例ですが、「オランダ文化論」の授業を通じて、オランダのことを更に深く知る機会になることを期待しています。

### Student's Voice



#### 【オランダ語I】

実りある留学にすることを意識してオランダ語を学んでいます。

2年 田内 花奈

(佐賀県立佐賀西高等学校出身)

週2回、1日は文法を学び、1日は会話練習をしています。先生が作られたテキストは分かりやすく、そのまま現地で使える文章ばかり載っているので、とてもためになります。少人数で学んでいるので、先生は1人1人をじっくり見てくださいますし、みんなとのコミュニケーションを深めることが出来ていると思います。また、先生がよくオランダ語の曲を授業中間かせて下さり、オランダの文化も知ることが出来て毎回楽しく授業を受けています。オランダ語をこういった環境の中で学べるのは、非常に貴重で恵まれていると感じています。3年次からオランダに留学する予定なので、この授業で学んだことを精一杯活かして留学を実りあるものにしたいです。



# 多様な知識と経験を持つ教員との出会いも 多文化社会学部の大きな魅力

多文化社会学部には、海外の様々な文化に通じる日本人の教員と外国籍もしくは外国出身の教員が在籍しています。様々な現場で実務経験のある教員も多く情報に奥行きがあり、実践的な知識が詰まった講義が展開されます。これから多文化社会へと羽ばたいていく皆さんにとって多様なバックボーンを持つ教員たちとの出会いはかけがえのない学びの機会となることでしょう。



教授 稲田 俊明  
INADA, Toshiaki  
【現代言語理論】

専門は言語学、英語学、言語獲得。言語共通の法則と言語固有の特性や多様性について、英語や日本語の事例を中心に研究。関連して、子供の言語獲得のモデルを研究。



教授 源島 福己  
GENJIMA, Fukumi  
【キャリア形成論】

海外留学やインターンシップがグローバル人材育成や社会人基礎力に及ぼす影響を研究。今は非英語圏における日系企業の人材育成が主な研究テーマ。



教授 佐久間 正  
SAKUMA, Tadashi  
【日本思想史】

専門は日本思想史。徳川日本を中心に日本思想史の研究を進めてきたが、近年は環境思想史の構築を目指すとともに、琉球王国の思想を研究。



教授 首藤 明和  
SHUTO, Toshikazu  
【現代アジア社会論】

家族・コミュニティ・市民社会・民族・国家や、超境を伴う移動とネットワークに着目し、アジアの社会と文化の分析を通して共生社会のあり方を模索。



教授 西原 俊明  
NISHIHARA, Toshiaki  
【コーパス言語学】

専門は、言語学、英語学、応用言語学。英語を中心に、言語に見られる普遍性・個別性についてコーパス等を用いて研究。



教授 葉柳 和則  
HAYANAGI, Kazunori  
【文化表象論】

専門は文化社会学。主テーマとして多言語国家スイスのナショナル・アイデンティティ、副テーマとして近現代長崎の都市イメージを取り上げ、表象の政治という視点から研究。



教授 広瀬 訓  
HIROSE, Satoshi  
【国際機構論】

専門は国際機構論、軍縮、安全保障論。核軍縮交渉のプロセス、特に核不拡散条約(NPT)を中心とした多国間交渉における、人権の確保を促進するための法的枠組みの可能性を研究。



教授 門司 和彦  
MOJI, Kazuhiko  
【グローバル人口学】

専門は人類生態学。環境と健康の関連を一体として捉えるエコヘルスの視点にたつて、集団の健康と生存についての人類生態学の研究をアジア・アフリカの調査地で研究。



教授 楊 晓安  
YANG, Xiaohan  
【対照言語学】

専門は応用言語学、実験音声学。実験音声学の手法を用いて、音声分析ソフトによる音声分析を通して、中日両言語の音声構造と文法・語義の関係について研究。



教授 連 清吉  
REN, Seikichi  
【中国思想史】

専門は中国思想、日本漢学。中国古代理想、とりわけ儒家と道家思想の在り方及びその現代的意義と、日本近代における中国学を受容・変容を研究。



教授 王 維  
Wang, Wei  
【異文化交流論】

長崎をはじめ、世界各地におけるチャイナタウン及び華人系社会・文化及び上位社会との交流史、音楽受容史、異文化観光について研究。



准教授 池田 幸恵  
IKEDA, Yukie  
【日本語学】

専門は日本語学、日本語史。漢語の日本における意味変化など、語彙や文法の面から日本語史を研究。近年は、コーパスを用いた日本語研究にも取り組む。



准教授 近江 美保  
OMI, Miho  
【国際人権論】

専門は国際法、国際人権法、フェミニズム国際法学。女性差別撤廃条約をはじめとする国際的な人権保障システムや、人権及びジェンダーと国際経済法の関係について研究。



准教授 カトローニ・ピノ  
Cutrone, Pino  
【異文化間コミュニケーション】

専門は、異文化語用論、応用言語学/TESOL、社会言語学、談話分析。日本におけるEFL(外国語としての英語)の教授法を研究。



准教授 木村 直樹  
KIMURA, Naoki  
【日蘭交流史】

日本近世政治・外交史(対外関係史)について、長崎を起点に研究。島原の乱や、九州発近世屈指の大船廠である寛永船廠についても研究。



准教授 グラジティアン・マリア  
Grajdan, Maria M.  
【メディア文化論】

文化人類学、音楽学、日本学が専門。現代日本の移動現象について、国家、社会、コミュニティ、家族との相互作用およびジェンダーに関わる文化的背景を踏まえて質的研究で分析。移動者を主体的に捉え、その目録を重視。



准教授 小松 悟  
KOMATSU, Satoru  
【国際開発論】

専門は開発経済学、環境経済学。アジアの途上国を対象として、国の経済開発と環境改善を両立させながら、持続可能な発展のためにどのような政策が望ましいかを分析。



准教授 コンペル・ラドミール  
Compel, Radomir  
【比較政治】

専門は政治学。各国の政治について、体制、組織、政策、住民との関係および歴史的な背景を踏まえ、共通点及び相違点を研究。



准教授 才津 祐美子  
SAITSU, Yumiko  
【文化資源論】

専門は民俗学、文化人類学。近現代の日本における地域文化の表裏・継承・活用のおり方について、文化遺産保全を中心に研究。



准教授 賽漢卓娜  
SAIHANJUNA  
【異文化と家族】

専門は家族社会学、移民研究。国境を跨ぐ女性の移動現象について、国家、社会、コミュニティ、家族との相互作用およびジェンダーに関する文化的背景を踏まえて質的研究で分析。移動者を主体的に捉え、その目録を重視。



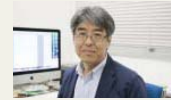
准教授 鈴木 英明  
SUZUKI, Hideaki  
【グローバル文化交流史】

専門は歴史学、世界史、インド洋海域史。グローバル化する世界に生きる私たちらがどのような世界史像を持つべきなのかをインド洋海域世界を主たる事例として研究。



准教授 滝澤 克彦  
TAKIZAWA, Katsuhiko  
【宗教文化論】

専門は宗教学、モンゴル研究。現代モンゴル国のキリスト教流行現象や、東日本大震災後の祭礼復興などを対象として、社会と宗教の動的関係について研究。



准教授 野上 建紀  
NOGAMI, Takenori  
【アジア海域交流史】

専門は考古学。陶磁器を生産した窯、運んでいた船、消費していた都市の遺跡を調べて、「陶磁の道」とも呼ばれる「海のシルクロード」を研究。



准教授 波佐間 逸博  
HAZAMA, Itsuhiro  
【地域生態論】

アフリカの牧畜社会でフィールドワークを行い、暴力紛争や民族的病いの問題、他者や動物との共生とコミュニケーションについてサバンナの生活者自身の目録から研究。



准教授 正本 忍  
MASAMOTO, Shinobu  
【社会史】

専門はフランス近代社会史、法制史。フランス北西部ノルマンディー地方を主なフィールドとして近世フランスの統治構造および社会構造の研究。



准教授 増田 研  
MASUDA, Ken  
【現代アフリカ社会論】

専門は社会人類学。アフリカ、アジア、日本の各地で社会の成り立ちと歴史を追いかけています。近年は、開発途上国における保健と高齢化の問題に取り組む。



准教授 見原 礼子  
MIHARA, Reiko  
【異文化理解教育】

専門は比較教育学、教育社会学。ヨーロッパを主なフィールドとして、多文化社会における移民の教育問題や子どもの虐待問題を研究。



准教授 森川 裕二  
MORIKAWA, Yuji  
【国際政治学】

国際政治の仕組みが、一体化する世界の中でどのように変化しているのか、国際政治の理論的な基礎を歴史的な背景や現実の社会の動きに照らして研究。



助教 石川 真由美  
ISHIZUKA, Mayumi  
【国際法】

専門は国際法。19世紀スコットランドを軸とした国際法説・思想史、軍縮・軍備管理をめぐる国際法規範及び国際環境法の研究に取り組む。



助教 南 誠  
MINAMI, Makoto  
【トランスナショナルリディ論】

専門は歴史社会学、国際社会学。中国帰国者の調査や、満洲の歴史と記憶の国際比較を手がかりに、近代東アジアにおける境界文化の生成と溶解について研究。



助教 山下 龍  
YAMASHITA, Noboru  
【オランダ語I・II・III】

①日本人を対象としたオランダ語教育、②日本人を対象とした英語教育、③日欧比較文化の研究(現在は主に日本茶道文化史の研究)、④日蘭交流史(現在は主に出身と医学の研究)



# 1年次から途切れなく提供する独自の キャリア教育プログラム

グローバル化が加速する時代のライフコースを視野に入れて、独自のキャリア教育プログラムを提供しています。

1年次の学部モジュール科目「グローバルキャリアへの扉」では、国際関係機関、国際NGO、ジャーナリズムといった社会人経験を持つ教員が講師となって経験に基づく授業を行い、将来のキャリアを形成するための課題について議論しながら学びます。さらに、正規の授業科目と並行し「キャリア支援講座」を実施しています。これは、各界のグローバル最前線で活躍する講師を招聘し、社会の現状を知ると同時に、学生時代から現在に至るまでにどのようにキャリアを形成してきたのか、学生時代にどのような能力を習得する必要があるのか、を学ぶ講座です。

## キャリア支援講座



白川方明氏

成瀬悠氏

**第1回** 白川方明氏 (日本銀行前総裁)  
「グローバル社会の中央銀行と私のプロフェッショナル・ライフ」

**第2回** 成瀬悠氏 (特定非営利活動法人 (NPO法人)「ハロハロ」代表)  
「誰もが魅力的に働き生き社会へ」  
木村暎代氏 (JICAデスク長崎・国際協力推進員)  
「国際協力がって何だろう～青年海外協力隊の経験から～」

**第3回** 羽藤秀雄氏 (特許庁元長官、平成26年現顧問)  
「グローバル時代の産業政策・知財政策と私のキャリア」

また、自らの主体的な意思と努力によって職業世界を経験することも重視しており、「自主企画インターンシップ」として学生の自主的な参加を前提とした選択科目も設定しています。主として2年次の学生を対象に、夏季休業等の長期休業期間中に国内外企業等において2週間～1か月程度実施します。3年次には、専門教育科目として「キャリア形成論」を必修化しています。このように、1年次から途切れなくキャリア形成のためのプログラムを提供することにより、自己の強みを最大限に活かすことのできる将来目標を設定するための支援体制を、全学のキャリアセンター機能と連携しながら整備しています。

## ■キャリア支援のステップ

正規科目「地域をこえるマネジメント」のほか、自分を見つめながら、将来の仕事を通じた成長に主体的に向き合うことのできる力を創造することを目的に、学部独自の「キャリアコンサルティング」と「就職ガイダンス」を1年次から実施します。中期・長期留学を経験する学生にも、こうしたキャリア形成の中での意識づけを目的に留学期間中もサポートします。

## 取得できる資格・免許

多文化社会学部では学生が資格や免許取得に積極的に取り組める環境を整えています。

### 高等学校教諭一種免許状 (英語)

共生文化コースに進んだ学生は、教員免許関連科目の単位を修得することで、英語教員免許 (高等学校教諭一種免許状 (英語)) を取得することができます。高等学校の教員として必要な資質を身につけるとともに、学部教育を通じて獲得した卓越した英語力を、高等学校という教育現場で生かすための、効果的な指導法や教材開発手法を学ぶことができます。

### 日本語教員基礎資格

多文化社会学部で開講される日本語教員基礎資格科目を履修し、所定の単位数を取得した学生に対して「日本語教員基礎資格」を認定し、卒業時に日本語教員養成プログラムの修了証を交付します。世界では400万人近い人々が日本語を学習していますが、教師の数はまだまだ不足していると言われています。とりわけ英語の堪能な日本語教師に対する需要は高く、多文化社会学部で学んだ学生にとって適した資格と言えます。

## ■キャリア支援・就職支援

長崎大学では、ガイダンスやセミナーなどの開催、相談や面接指導を行い、就職活動を全面的にバックアップします。就職活動の拠点として、長崎大学ラウンジ【東京】【大阪】【名古屋】【広島】【福岡】や東京事務所を構えています。

### 就職支援・ キャリア情報コーナー

就職活動に必要な最新情報や資料をいち早く収集し、学生の皆さんへ提供するとともに、就職活動を開始する上での心配事や不安を解消するため、「就職支援・キャリア情報コーナー」を設置しています。

### 学内合同企業説明会

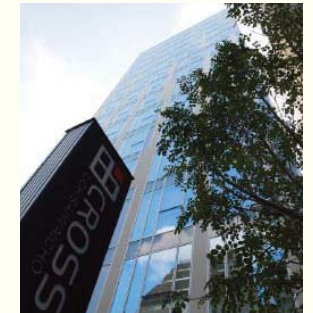
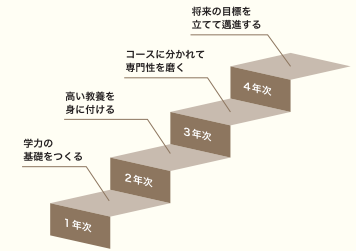
本学学生に対する採用意欲の高い企業が集結するセミナーです。企業の人事担当者や話すことで仕事や社風について知り、自己の適性をはかることができます。

### 就職「何でも相談・模擬面接」

充実した就職活動を行えるように就職「何でも相談・模擬面接」を実施しています。相談内容は、就職に関することなら何でも構いません。また、さまざまな疑問や不安を専門家 (キャリアカウンセラー・アドバイザー) に話すことができます。

### NU-Naviシステム (就職情報総合支援システム)

学生へ充実した就職情報と支援を提供するためのシステムです。企業・求人情報検索・インターンシップ情報・就職何でも相談・学内説明会等の情報・予約・SNS機能等・重要なお知らせは直接登録メールアドレスへ配信などの機能があります。



長崎大学東京事務所 (クロスオフィス内幸町)

## TOPICS

### ナガサキ・ユース代表団第3期生メンバーに多文化社会学部の学生が選出されました!

ナガサキ・ユース代表団とは、2015年春にニューヨークの国連本部で開催される核軍縮・不拡散の国際会議である「2015年NPT (核兵器不拡散条約) 再検討会議」に若者が参加することで、最新の生きた国際議論の動向を学び、世界の人々とのネットワークを広げ、核なき世界の実現に向けた担い手となることを目指すプロジェクトです。今回は被爆70周年の節目にあたり、5年に1度のNPT再検討会議への参加となりました。そのナガサキ・ユース代表団第3期生メンバー全12名のうち、多文化社会学部から3名の学生が選出されました。

### 多文化社会学部からの参加メンバー

- 2年 竹田 穰 (熊本県立第二高等学校出身)
- 2年 秀 総一郎 (熊本県・真和高等学校出身)
- 2年 稲垣 歩海 (愛知県立尾北高等学校出身)

### ナガサキ・ユース代表団参加者の声

NPT再検討会議に参加して  
「国」「国際情勢」を理解する視野が広がりました。



### 2年 秀 総一郎

(熊本県・真和高等学校出身)

私は2015年4月末から約1ヶ月間、ナガサキ・ユース代表団としてニューヨークの国連本部で開かれた2015年NPT再検討会議に参加しました。この会議に参加するにあたって、昨年12月から勉強会やミーティングを重ね、時間をかけて核問題について学んできました。国連での活動は、主に会議の傍聴と自分たちで企画したプロジェクトです。私はそこで日本の平和教育について発表し、日本や世界各国の政府関係者の方やNGO団体の方と話をしたことで他の国についての理解が深まり、自分自身の「世界」との距離が近づいたように感じます。また、実際に会議に参加して声明文を文書で読むだけでは感じることのできない各国の熱意というものも感じる事ができました。日本にいてだけではどうしても同じ視点からしか物事を捉えることができなくなりがちなので、今回の貴重な経験を通して、あらゆる視点から柔軟に世界をみる事ができるようになったと感じます。このような形で世界と関わることができ、国連の会議に実際に参加するという大変貴重な経験ができたのも、長崎大学に入学し、被爆地「長崎」という特別な土地に来ることができたからです。



# CAMPUS LIFE

勉強はもちろんサークル活動や学内イベントにも参加して  
キャンパスライフをより充実したものにしていきたいと思います。

April 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*入学式</li> <li>*前期授業開始</li> <li>*新入生合宿研修</li> </ul>	 	<p>新入生合宿研修</p> <p>入学式</p>
May 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*開学記念日</li> </ul>		
June 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*TOEFL ITP 受験</li> </ul>		
July 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*オープンキャンパス</li> <li>*前期授業終了</li> <li>*前期定期試験</li> </ul>		<p>授業風景</p> <p>教養セミナー成果発表会</p>
August 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*教養セミナー成果発表会</li> <li>*夏季休業</li> <li>*夏季英語集中講座</li> </ul>		<p>短期留学(アメリカ)</p> <p>短期留学(カナダ)</p>
September 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*短期留学</li> </ul>		
October 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*後期授業開始</li> <li>*TOEFL ITP 受験</li> </ul>		
November 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*学園祭</li> </ul>		<p>学園祭</p>
December 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*冬季休業</li> </ul>		
January 1月			<p>サークル活動</p>
February 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*後期授業終了</li> <li>*後期定期試験</li> <li>*TOEFL ITP 受験</li> </ul>		<p>英語カフェ</p> <p>短期留学(オーストラリア)</p>
March 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>*短期留学</li> <li>*春季休業</li> <li>*卒業式</li> </ul>		<p>卒業式</p>

## キャンパス外の日常生活においても 多文化状況の交流を体感 —国際学寮ホルテンシア

多文化社会学部の新入生は、入学時から1年間は原則として、寮で生活を共にすることになります。1ユニット4人(外国人留学生1人を含む)のルームシェア形式で、新入生同士や外国人留学生と共同生活を送りながら、大学キャンパス外の日常生活でも多文化状況の中での交流を体感することができます。  
なお、防犯対策として、各ユニットの玄関にはカードキー対応ドアを、各個室には暗証番号対応ドアをそれぞれ装備しています。



**【所在地】**  
 (A棟) 長崎市白鳥町8-77  
 (B棟) 長崎市白鳥町8-78 (ともに大学まで徒歩12分程度)

**【収容人数】**  
 135人(A棟72人・B棟63人)

1ユニット4人(外国人留学生1人を含む)のルームシェア形式(ただし、1ユニットのみ車椅子対応の3人のルームシェア)

**【入居費用】**  
 月額22,000円(ただし、水道光熱費を除く。)  
 ※上記のほか、入居時に借家人賠償責任保険等の加入が必要です。  
 ※退去時のクリーニング費用として、10,000円が必要です。

**【施設】**  
 集会室、駐輪場

**【設備】**  
 [個室] エアコン、光回線インターネット、TV端子、照明、机、椅子、ベッド、電気スタンド、暗証番号対応ドア  
 [共有スペース] シャワーブース、システムキッチン、ダイニングセット(テーブル、椅子)、冷蔵庫、電子オーブンレンジ、全自動洗濯機、衣類乾燥機、カードキー対応玄関ドア 等

**【食事】**  
 食事の提供はありません。共同キッチンで自炊することができます。



## 寮生活のリポート



1年 大淵 菜音子  
 (長崎県立佐世保高等学校出身)

ホルテンシアでの生活は、ルームメイトと一緒にご飯を作って食べたり、課題をしたり、とても充実しています。また、留学生と一緒に話をしているという異なる日本の文化の違いに気がつくことができとても面白いです。私のユニットではベルギーからの留学生と生活しています。料理をよく作ってくれるのですが、日本の料理では使わないような香辛料をたくさん使っていて驚きました。ほかのユニットの留学生もよく遊びに来てくれるので、留学生の友達がたくさんできます。  
 それから、多文化社会学部の1年生はみんな寮に住んでいるので、課題で分からないところなどをすぐに教えてもらえるのですごく助かっています。中には寺子屋みたいになっているユニットもあるようです。毎日同じところで生活しているのでみんなとても仲良くなれるし、安心して生活することができます。



# 平成28年度入試情報

## 求める学生像

- 英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している者
- 世界の多文化状況や異文化交流に興味、関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲のある者
- 世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる素養をもつ者
- 世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる素養をもつ者

## 入学者選抜の基本方針

多文化社会学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、論理的批判的思考力・判断力・表現力を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては英語を主とした外国語の運用能力と、多文化状況や異文化への興味・関心、学ぶことへの意欲も重視します。

## 募集人員

学部	学科等	入学定員	募集人員					
			一般入試(分離・分割方式)		AO入試	帰国子女入試	外国人留学生入試	合計
			前期日程	後期日程	AO入試Ⅰ			
多文化社会学部	グローバル社会コース 社会動態コース 共生文化コース	100	68	10	12	若干人	若干人	90
	オランダ特別コース		7		3	若干人	若干人	10
	計	100	75	10	15	若干人	若干人	100

一般入試 ※詳細は、11月下旬発表予定の「平成28年度一般入試学生募集要項」をご覧ください。

コース名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		2段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等															
		教科	科目名等	教科等	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	面接	配点合計					
グローバル社会コース 社会動態コース 共生文化コース	前期 2月25日(木)	国 地歴 公民 数理 外	国 世B/日B/地理B 現社/倫/政経/倫/政経 数Ⅰ/数Ⅱ/数A/数Ⅱ/数Ⅲ/数B ①物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎から2科目 ②物理/化学/生物/地学から1科目 英/独/仏/中/韓から1科目	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ・Ⅳ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 批判的・論理的思考力テスト(総合問題)	大学入試センター試験の外国語科目の得点率が80%以上の者(注3)又はTOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEFL Junior® Comprehensive341点以上、TOEIC®730点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のスコア・級を有する者	センター試験	50	25			25			200						300	
	後期 3月12日(土)	国 地歴 公民 外	国 世B/日B/地理B 現社/倫/政経/倫/政経 英/独/仏/中/韓から1科目	その他	小論文 面接	大学入試センター試験の外国語科目の得点率が85%以上の者(注3)又はTOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEFL Junior® Comprehensive341点以上、TOEIC®730点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のスコア・級を有する者	センター試験	50	50					200				250	50		300	
オランダ特別コース	前期 2月25日(木)	国 地歴 公民 数理 外	国 世B/日B/地理B 現社/倫/政経/倫/政経 数Ⅰ/数Ⅱ/数A/数Ⅱ/数Ⅲ/数B ①物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎から2科目 ②物理/化学/生物/地学から1科目 英/独/仏/中/韓から1科目	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ・Ⅳ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 批判的・論理的思考力テスト(総合問題) 面接	大学入試センター試験の外国語科目の得点率が80%以上の者(注3)又はTOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEFL Junior® Comprehensive341点以上、TOEIC®730点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のスコア・級を有する者	センター試験	50	25			25			200					60		300
	後期	実施しない				実施しない																
	計	50	25			25					300	200			250	50			60		660	

(注1) 地歴・公民を2科目受験している場合は、第1解答科目を採用する。  
 (注2) 数学及び理科を学部が指定している科目より多く受験している場合は、高得点科目を採用する。ただし、理科については第2解答科目は採用しない。  
 (注3) 大学入試センターが発表する大学入試センター試験(本試験)平均点(中間集計その2)における英語の平均点(筆記試験とリスニングテストの平均点の合計を200点満点に換算)が、115点を下回る場合は、大学入試センター試験の外国語科目の得点率(英語に限る)を見直すことがある。なお、得点率の見直しの有無及び見直し後の得点率は、平成28年1月25日頃に長崎大学ホームページ(入試情報サイト)で発表する。

AO入試Ⅰ ※詳細については、7月上旬頃発表予定の「平成28年度AO入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日(第2次選考日) **平成27年10月3日(土)**

選抜方法等 自己推薦書、調査書等、個人面接及び筆記試験の結果を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEFL ITP®500点以上、TOEFL Junior® Comprehensive341点以上、TOEIC®730点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のいずれかのスコア・級が必要です。  
 注1) 外国語検定試験は、平成26年2月以降に受験した試験に限ります。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成26年2月以降に受験した試験とします。  
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

帰国子女入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成28年度帰国子女入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 **平成27年11月19日(木)**

選抜方法等 提出された書類及び面接(日本語及び英語による)の成績の結果を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT®75点以上、TOEFL®PBT537点以上、TOEIC®750点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上又はIELTS6.0以上のいずれかのスコア・級が必要です。  
 注1) 外国語検定試験は、平成26年2月以降に受験した試験に限ります。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成26年2月以降に受験した試験とします。  
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

外国人留学生入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成28年度外国人留学生入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 **平成28年1月27日(水)**

選抜方法等 「TOEFL®等の成績」、「日本留学試験(日本語、総合科目及び数学コース1)」、「面接(日本語及び英語による)」の得点を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEIC®730点以上又はIELTS5.5以上のいずれかのスコア・級が必要です。  
 注1) 外国語検定試験は、平成26年2月以降に受験した試験に限ります。  
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

## 批判的・論理的思考力テスト(総合問題)の導入

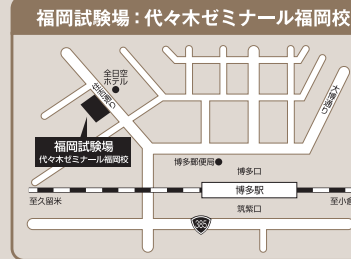
一般入試(前期日程)の「批判的・論理的思考力テスト(総合問題)」では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、批判的・論理的思考力を評価しています。  
 グローバル化する社会でみなさんが直面する出来事や課題は、たとえ個人的な事項、ローカルな問題であるとしても、どこかでグローバルな要因とつながっています。そして、こうした出来事や課題の解決のためには、「唯一の正解」を見出すことができず、多様な場合がある場合がほとんどです。こうした「唯一の正解」のない問いに答えようとする上で重要となるのは、身につけた知識や技法を活用して、唯一の正解など存在しない出来事や課題に対してできる限り説得力のある解答や解答を導き出すことです。  
 批判的・論理的思考力テストでは、文章、グラフ、地図、表などを読み解き、そこから論を展開していくこととなります。

- そのためには
- (1) 国語の授業で身に付ける読解力、思考力、文章力
  - (2) 地歴・公民の授業で身に付ける歴史の流れ・因果関係
  - (3) 「この地域はこんな地域」という地理的イメージ力
  - (4) 現代社会の仕組みや他者に対する倫理
  - (5) 数学や理科の学習を通して養われる数理的に物事を判断する力や論理的に推論する力
- といった力と知識を総動員することが必要となります。

出題例・解答例・採点の観点については下記URLよりPDFをダウンロードできます。  
<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/exam/data.html>

## 東京・福岡 学外試験場 [一般入試(前期日程)] のご案内

※オランダ特別コースについては長崎(文教キャンパス)試験場のみの受験となります。



福岡県福岡市博多区博多駅前4-2-25



東京都千代田区神田駿河台2-1